

2003 年度研究報告会



2004年3月6日（土）午後2時から6時、東京都文京区関口の渥美財団ホールにて、2003年度渥美財団研究報告会が開かれ、当期渥美奨学金受給者12名全員が研究成果を発表しました。今期・来期の渥美奨学生やラクーン会（同窓会）メンバー、財団役員に加え、今期奨学生の指導教授、留学生支援財団の方々も含む約50名の方々にご参加いただきました。最初に、渥美伊都子理事長から、ホールに飾ってある雛飾



りは自分が生まれた時（昭和初期）に祖母がイタリアへ送ってくれ、帰国後も戦争中は疎開し、東京空襲の焼失を逃れたというお話がありました。自分の博士研究内容を「子供にもわかるように」「15分以内で」説明するという大変難しい課題にもかかわらず、発表者はパワーポイント（コンピューターを使って発表するプログラム）を使ってそれぞれ素晴らしい発表をしてくださいました。最後に、来賓としてご参加くださ

った宇都宮大学の竹内安智教授、明海大学の原口庄輔教授、野村国際文化財団の諸角憲治事務局長、そして当財団理事で聖路加国際病院の野辺地篤郎元院長からご挨拶をいただきました。報告会の後、嶋津忠廣 SGRA 運営委員長より、渥美財団の元留学生ネットワークによる「関口グローバル研究会（SGRA）」の紹介、研究フォーラムの案内がありました。その後、参加者はビールと中華料理、お寿司などを食べながら歓談を楽しみました。発表時に、ブレーカーが落ちてプロジェクターが10分間とまってしまうという小さな事故もありましたが、本年度最後の行事も盛会のうちに終わらせることができました。



発表準備



2003 年度奨学生と財団スタッフ

■来賓挨拶



宇都宮大学竹内教授



明海大学原口教授



野村国際文化財団
諸角事務局長



渥美財団野辺地理事

■懇親会



■発表テーマ

(写真は研究発表の奨学生の皆さん 上段より左から右へ発表順)

蔡 相憲「根寄生雑草の種子発芽とその制御に関する研究」

張 桂娥「異文化間における物語受容の研究－戦後日本と台湾の児童文学作品交流状況をめぐって－」

フスレ「中国共産党・国民党の対モンゴル政策（1945～49年）」

郭 智雄「企業組織における組織イノベーション・プロセスの理論的考察と実証研究」

林 少陽「西協順三郎詩学理論研究－修辞批評史的視点におけるその『イロニーの詩学』を巡って－」

陸 躍鋒「海底音響画像からの有用な情報抽出に関する研究－コンピュータビジョンと海洋技術との出会いを期して－」

朴 貞姫「日朝中空間概念の研究－動態空間の表現を中心に－」

マリア・エレナ・ティシ「日本児童文学におけるイタリア文化の受容－宮澤賢治を軸として－」

ヤマグチ アナ エリーザ「在日ブラジル人の家族問題とコミュニティ形態の影響に関する考察
－集住地域と分散居住地域における比較研究－」

尹 熙淑「ブロックコポリマーテンプレート法を用いた酸化物メソポーラス材料の合成とその電気化学特性」 臧 俐「初任者
研修政策の形成・実施過程に関する研究－国会審議・地方自治と政策の変容を中心に－」

金 賢旭「翁信仰の形成－中世芸能の成立－」

